



# Newsletter

vol.33

ぴあかもみーる日記⑭ ●  
パオ11周年記念イベントリポート ●



パオの  
現いま

## 「ぴあ・かもみーる」日記 ⑭

私は「ぴあ・かもみーる」で暮らす子どものパートナー弁護士も担当していますが、事務局として子どもたちに関わることが多いです。「ぴあかも」の生活の中でトラブルがあったり、ルール違反があったりしたときに、パートナー弁護士とは別にパオの事務局として、その子に話をしに行くのです。もっと単刀直入に言うと、ルール違反などをした子に対して「説教」をしに行くのです。

私たち「パオ」の理事長は、子どものパートナーになる弁護士として大切なこととして、

- ①子どもを支える。指導監督はしない。
  - ②子どものことは子どもから学ぶ(子どもの視点)。
  - ③子どもと関わるプロセスを大切にする。
- を挙げています(実際実践されています)。

しかし、私は明らかに①に反することをやっています。代表の言われていることはもっともなことですが、いくら子どもの視点で…といっても、共同生活である以上一定のルールは必要になります。それがないと、その子には良いことでも、他の子を傷つけることもあり、その子にとって安心安全な空間を提供できなくなるからです。

スタッフに対して厳しい言葉を投げかける子どももいます。その子はその子で、そのように表現せざるを得ないだろうなどは思います。思っていますが、スタッフも人間です。大人だから、仕事だからといって傷つけられていいというものでもありません。

私はよく子どもたちに、「みんなのことも大切だけど、パオのスタッフも同じくらい大切に思っている。だってスタッフが辞めたら、みんなのことも守ることができなくなるから。」という話をします。

要は説教役の私ですから、当然ながら、子どもたちからの受けはすこぶる悪いです。私が「ぴあかも」に訪れただけで、「今日は誰が怒られるの?」とささやかかれ、話が終わって「ぴあかも」を離れると、「むかつく!」「あのハゲ親父!」などと言われているそうです(既に「ぴあかも」を旅立った子がそっと教えてくれました)。

そんな私でも、子どもたちがスタッフやパートナー弁護士とうまくいってくれるなら…いいんです、いいですとも…。(事務局担当弁護士)

